

マーケット概況（2021年10月）

10月の債券相場は、前月末に公表された日銀買入オペ方針で全年限の買入額が維持されたことから買い先行で始まり、10年363回債の利回りは前月末比-1.0bpの0.055%で取引を開始し、債券先物12月限は151円67銭まで上昇した。しかし、米国市場で原油価格の高騰によるインフレ懸念や連邦政府の債務上限問題の進展等によるリスクオンの流れが広がると本邦債券市場も下落に転じ、8日発表の9月米国雇用統計で平均時給が予想を上回る伸びとなると下げ幅を拡大した。14日発表の9月米国PPIの上昇率が鈍化するなど米国経済指標が軒並み予想を下回ると買い戻されたが、英国やニュージーランドなど各国中銀の金融政策が正常化するとの観測が強まったことから相場は再度売りに押され、31日の衆院選を控え経済対策の大規模化による国債増発懸念も加わると26日に10年364回債の利回りは新発債として4月12日以来となる0.105%まで上昇し、27日に債券先物12月限は一時151円07銭まで下落した。28日の日銀金融政策決定会合は現状維持で相場への影響は限られたが、月末にかけてはカナダ中銀やECBの利上げ観測が意識され、世界的にイールドカーブのフラットニングが進行した流れから長期債が買われる展開となり、結局10年364回債の利回りは0.095%で取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は年末越えニーズにより-0.12%台でスタートしたが、投資家需要が一巡したことで月後半にかけて一時-0.10%台に上昇した。月末にはドル・円ベーススワップのマイナス幅拡大に伴い-0.11%台に小幅低下した。1日の3M1027回債入札の最高落札利回りは-0.1271%だったが、その後3回の入札では投資家需要の後退により-0.11%台～-0.10%台に上昇し、セカンダリー市場では-0.10%台で推移した。29日の3M1034回債入札は、次回の3M発行額が4.3兆円に減額されたことを背景に-0.11%台となり、セカンダリー市場では-0.120%で月内の取引を終えた。6M・1Y金利は-0.11%後半でスタートしたが、セカンダリー市場での投資家需要が乏しく月中旬には0.75bp～1.0bp程度上昇した。3Mの金利低下に伴い月末には1Y・6Mとも-0.11%台で取引を終えた。

<一般債市場>

10年政保債の起債はなく、10年地方債の起債スプレッドは国債カーブ+6.0bpと前月比同水準で決定した。10年基準金利が比較的高い水準にあり、利率は前月債対比で上昇し無難に消化された。5年地方債の利率は、前月の0.005%から0.001%へ低下し2020年3月債以来の低利率となったが、プラス利回りへの需要は旺盛だった。既発債の需給は総じて良好だが、一部スプレッドの拡大が意識された。社債では、パナソニックのハイブリッド債やNTTファイナンス、武田薬品工業、その他全共連劣後ローン流動化債など大型起債が集中し、発行額は10月として過去最高となる2兆827億円に膨らんだ。大型案件が続く中、グリーンボンドやソーシャルボンド等のSDGs債には投資家の資金流入が継続した。

◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#364	0.050(5日)	0.050(5日)	0.105(26日)	0.095(29日)
#363	0.055(1日)	0.040(5日)	0.095(27日)	0.080(29日)
#353	-0.055(1日)	-0.055(1日)	-0.015(26日)	-0.030(29日)
#148-#149(5Y)	-0.095(1日)	-0.100(1日)	-0.055(26日)	-0.075(29日)
#177-#178(20Y)	0.435(1日)	0.415(4日)	0.495(25日)	0.470(29日)
#1025-#1032TDB(6M)	-0.117(7日)	-0.118(11日)	-0.106(21日)	-0.113(21日)
#1027-#1034TDB(3M)	-0.138(1日)	-0.138(1日)	-0.107(22日)	-0.120(29日)